



族立つまでをどう支えるか？

—ターミナルケアにおける排泄ケアを学ぼう—

人はみな必ず亡くなります。事故や災害などによる突然の別れもあるでしょうし、ご病気によっては、診断がついて間もなくお別れのときを迎えるということもあるでしょう。しかし、三大死因疾患としてまず頭に浮かぶ「癌（悪性新生物）」にしてもかかってすぐに亡くなるのではないし、病状が進行した、と判断されても、そこから終焉のときまでを過ごす時間というのが一定は残されています。

最近では、高齢の方であっても、手術や抗がん剤治療などをぎりぎりまで施行するケースもあれば、逆に、時期をみて積極的な「治す」ための治療から「癒す」ためのケアへと方向を換えていくケース等、さまざまです。一時のように最期までたくさんの輸液チューブや呼吸器をつけて、病院で亡くなるまで徹底的に管理をする、というよりは、できれば在宅で、あるいは地域でその方にとっての「生活」を重視して過ごしていただく、ということについてのサポートも充実してきていると思います。

さて、そんな「ターミナルケア」の中で重要なのは、いかに最期まで尊厳をたもって排泄を支援するか？意外にこのテーマ、お互いに語ったことが少ないのではないのでしょうか？ターミナルケアにおける排泄の問題について斬り込みます。

- ・ 会員は勉強会参加に関しては、何度の受講においても無料です。
- ・ 非会員の方でも1000円で聴講が可能です（事前申込不要）。